

## 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「明るく、たくましく、心爽やかな」国際社会に貢献できる人材を育成し、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。  
—アクション、シンキング、チームワークですべての子供たちの可能性を最大限に引き出します—

1. 夢・目標を主体的に見つけ、進路実現に向けて自律的に行動できる生徒を育てる。
2. 知的好奇心が旺盛であり、自ら学び考え、自己の可能性を広げるため粘り強くチャレンジする生徒を育てる。
3. 地域や国際社会の一員としての自覚の下、自らの義務と責任を認識し、集団に貢献する意欲のある生徒を育てる。
4. 他者を思いやり、尊重し、互いに認め合い、協働にて行動できる生徒を育てる。

## 2 中期的目標

## 1. 確かな学力の育成

(1) 「主体的・対話的・深い学び」を追究し、新しい時代に対応できる「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の育成に取り組む。

- ア 学校としての「生徒に育成したい資質・能力」、「めざすべき生徒像」について、全教員で共有し、授業を軸にその実現へ向かう。  
※学校に期待される社会的役割【スクールミッション】に基づく【スクールポリシー】(グラディエーションポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)の策定に着手する。
- イ 学力向上委員会を中心に相互授業観察、研究授業などの計画的実施、授業アンケートの効果的活用など、学力向上に組織的に取り組む。又、ICT機器を効果的に取り入れ個別最適な学びと協同的な学び、一斉学習を併存的に展開するなど学びの深化を図る。  
※学校教育自己診断(生徒)における授業満足度の肯定的回答(R2 68% R3 74% R4 82%)を令和7年度まで70%以上を維持する。
- ウ 新学習指導要領に対応した特色ある教育課程を追究する。

## 2. 夢と希望を持ち、進路実現に積極的に取り組む生徒の育成

(1) 生徒の希望する進路の実現に向けて、計画的な進路指導体制を確立する。

- ア 3年間を通じた継続的かつ計画的に進路指導に取り組み、大学・短大、専門学校および地域や福祉・労働等関係機関、等と連携を深めキャリア教育を推進する。
- イ 3年間を通じた計画的な講習の実施により、早期からキャリア形成を見通し努力させる。  
※実力考査の結果の分析を行い、学習支援クラウドサービスなどを活用し継続的な進路指導を行う。  
※学校教育自己診断(生徒)における進路に関する情報提供の肯定的回答(R2 82% R3 87% R4 92%)を令和7年度まで85%以上を維持する。

(2) 各授業、HR、「総合的な探究の時間」や学校行事などを通じ、探究的に学び論理的思考力や表現力を向上させる機会を確保しキャリア発達を促す。

(3) グローバル人材の育成

- ア 関係機関との連携や海外の学校との友好交流、SDGsの視点を踏まえた授業やHR、「総合的な探究の時間」、特別活動等の実施を奨励すると共に、英語運用能力の向上を図るなど、国際理解教育を推進する。  
※学校教育自己診断(生徒)における「授業や行事で国際理解について学ぶ機会がある」の肯定的回答を(R2 57% R3 63% R4 82%)令和7年度まで75%以上を維持する。

## 3. 安全安心で魅力のある学校づくり

(1) 規範意識を醸成する等、個々の生徒への支援体制を充実させ社会の一員としての自覚を促す。

- ア 朝の職員連絡会やSHRを通して、生徒の状況を把握、教員間で共有し、望ましい生活習慣、生活規範の確立に向けた指導を行う。
- イ 関係機関との連携にて校内支援体制を充実させ、すべての生徒の学びと育ちを支援する。
- ウ 互いの違いを認め合い、「ともに学び・ともに育つ」精神を育成し、学校に行くのが楽しいと感じる環境を作る。  
※学校教育自己診断(生徒)における人権について学ぶ機会の肯定的回答(R2 86%、R3 89%、R4 92%)を令和7年度まで85%以上を維持する。  
※年間の遅刻数を令和7年度まで2,000件以下を維持する。(R2 2,973件、R3 1,970件、R4 2,067件)  
※学校教育自己診断(生徒)における「先生は悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答(R2 77%、R3 82% R4 85%)を令和7年度まで75%以上を維持する。  
※学校教育自己診断(生徒)における「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答(R2 77%、R3 80%、R4 85%)を令和7年度までには80%程度を維持する。

(2) 特別活動や生徒会活動を活性化させ生徒の自己肯定感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。

- ア 部活動や文化祭、体育祭などの生徒の自主的な活動を活性化させるとともに協働にて取り組む内容を充実させる。  
※学校教育自己診断(生徒)における「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答(R2 75%、R3 82%、R4 84%)を令和7年度まで75%以上を維持する。  
※学校教育自己診断(生徒)における「体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答(R2 59%、R3 78%、R4 88%)を令和7年度まで75%以上を維持する。  
※生徒向け修学旅行アンケートにおける満足度の肯定的回答(R2 95%、R3 97%、R4 98%)を令和7年度まで90%以上を維持する。

(3) 生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう保護者等との連携および環境の整備を行う。

- ア 保護者との連絡を密にし、生徒が安全・安心に学校生活を送られるようにする。
- イ 美化活動等の環境整備
- ウ 「防犯及び防災計画」を点検し、天災や火災、侵入者などに対する危機管理体制を充実させる。また、保健所や学校医、関係機関等との連携にて、食物アレルギーに係る事故防止や、熱中症や感染症等に係る対応を充実させ、保健・安全・衛生管理に対する指導の徹底を図る。  
※学校教育自己診断(保護者)における「家庭への連絡や意思疎通」(R2 75%、R3 79%、R4 77.5%)を令和7年度まで75%以上を維持する。  
※学校教育自己診断(職員)における「事故・事件等に迅速・適切に対応」(R2 88%、R3 70%、R4 77.8%)を令和7年度まで80%程度を維持する。

## 4. 地域・保護者と連携した学校づくり

(1) 広報活動を活性化し、本校の取組みを中学生や保護者、地域に発信する。

- ア Webページおよびブログを定期的に更新し、本校の取組みを地域・保護者に発信する。
- イ 本校で実施する学校説明会をさらに充実させると共に、外部の学校説明会などにも積極的に参加する。  
※学習支援クラウドサービス登録者(R2 100%、R3 100%、R4 100%)の在籍者に対する割合を100%とする。

(2) 地域との連携に取り組む

- ア KEYS(貝塚警察署との連携した活動)等のボランティア活動を継続発展させる。
- イ 地域の学校等との連携を活発に行う。

(3) 保護者向け進路説明会の実施および保護者への進路情報の提供

- ア 保護者向け進路説明会の内容を充実させ、保護者が参加しやすい説明会を企画、実施するとともに、進路情報を積極的に発信する。  
※学校教育自己診断(保護者)における進路に関しての情報提供(R2 57%、R3 66%、R4 63%)を令和7年度まで60%以上を維持する。

## 5. 教職員の資質向上と意識改革

(1) 個々の教員が学校運営に参加する意識をもって業務にあたる。

- ア 運営委員会が中心となり同僚性を高め、校内での情報共有や意思統一を図り組織目標の達成に向かう。
- イ ICT 機器を効率的に活用し、さまざまなデータの共有・情報共有を行うと共に、事務作業、会議運営の効率化等を図り、生徒と向き合う時間を確保する。
- (2) 校内での教職員研修を充実させると共に外部で実施される研修等への積極的な参加を奨励する。
- ア 教職員の資質向上をめざした研修を計画的に実施する。
- イ 校外での研修などにより、積極的に情報を収集するとともに校内での周知を行う。
- (3) 校務運営の効率化を図り働き方改革の取組みを推進すると共に職員が生徒と向き合う時間を増やす。
- ア チームで働く力を向上させ、働きやすい職場環境の整備に努める。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【保護者に関して】 結果の詳細はHPをご覧ください。</p> <p>・13項目中6項目において、昨年度より肯定的な回答ポイントを上昇させている。上昇させた主な項目は「子どもは授業がわかりやすいと言っている：50.9→52.7」[学校はテストの得点だけでなくいろいろな面から学習の評価を行っている：72.5→74.0][学校は子どもに生命を大切にす心や社会ルールを守る態度を育てようとしている：56.4→58.7]「学校の授業参観や学校行事に参加したことがある：38.2→45.7」等である。特に、学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」については「全くあてはまらない」が31.8→25.2とかなり改善されている。感染症の概ねの収束が主な要因と思われる。</p> <p>・「学校ははじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる：34.3→34.1」について、肯定的な回答ポイントは昨年並みで高くないが該当事例に関係する保護者が限定されていることが要因と思われる。</p> <p>・[学校は家庭への連絡や意思疎通を積極的に、きめ細かく行っている]の肯定的な回答ポイントは77.5→73.9と下降している。今後、情報提供の方法や発信の時間帯等を勘案し保護者との意思疎通をより深めたい。</p> <p>【生徒に関して】 結果の詳細はHPをご覧ください。</p> <p>・21項目中12項目において、昨年度より肯定的な回答ポイントを上昇させている。上昇させた主な項目は[文化祭は楽しく行えるよう工夫されている：84.2→89.9][体育祭は楽しく行えるよう工夫されている：88.3→92.0][自分の考えをまとめたり発表したりする授業がよくある：80.9→87.9]等である。</p> <p>・ほぼ昨年並みであるが、「よくあてはまる」の回答ポイントを上昇させた主な項目は[学校へ行くのが楽しい：84.6→82.9](よくあてはまる：43.1→44.1)[授業が判りやすい：82.5→82.3](17.4→22.1)[進路に関する情報が十分提供されている：92.0→91.2](41.5→44.5)[先生は、はじめについて私達が困っていることがあれば真剣に対応してくれる：86.7→86.2](35.9→40.2)等である。</p> <p>・否定的な回答が改善された主な項目は「学校生活についての先生の指導は納得できる：30.3→25.8」「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる先生がいる：38.0→28.4」「学校図書館の図書などを利用する：82.1→77.3」等である。今後、社会の変化とともに、より生徒理解を深め、更なる改善に努めたい。</p> <p>【教職員に関して】 結果の詳細はHPをご覧ください。</p> <p>・27項目中9項目において、昨年度より肯定的な回答ポイントを上昇させている。上昇させた主な項目は「本校の教育課程について、教職員で日常的によく話し合っている：61.1→73.5」「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう工夫・改善を行っている：80.6→91.2」「学校は1人1台端末を効果的に活用している：77.7→82.4」等である。</p> <p>・否定的な回答が改善された主な項目は「学校として、部活動の活性化について工夫している：52.8→38.2」等である。今後、部活動大阪モデルに沿い更なる改善に努めたい。</p> <p>【全体として】</p> <p>○診断結果より、総合的に信頼される学校づくりが進行している。今後も生徒、保護者、地域のニーズを把握するとともに、国や本府の動向を踏まえ、改善・改革を繰り返し、更なる学校力の向上に努めたい。</p>	<p>【第1回】 令和5年6月23日</p> <p>・グローバル人材の育成に向けて、関係機関との連携や高大連携、SDGsの視点を踏まえた授業やHRを通して、英語運用能力の向上に向けて取り組む生徒が増えてきている。</p> <p>・地域との連携した学校づくりに向けて、貝塚警察署との連携したボランティア活動を継続して行っていく中で、今年度のKEYSへの参加者数が昨年度より増えており、生徒の主体性が育まれている。</p> <p>・スクールミッションの実現に向けての具体的な手段であるスクール・ポリシーを生徒にも理解してもらえるような工夫が今後必要である。</p> <p>・観点別評価についての取り組みについては、昨年度の学年末評点分布によると、新課程と旧課程での評価に違いが見られたが、学年末評定分布にはほとんど差が見られなかった。</p> <p>・高校がどのような取り組みをしているのかを知って学校を選ぶことできている中学生が少ない現状。そのため、高校の進学状況やクラブ加入率など外側から見える数字が中学生にとって参考になってくる。</p> <p>・世の中ではSNSの普及により闇バイトや大麻といった危険に高校生が巻き込まれてしまう事件が多い現状を踏まえ、学校として外部機関と連携して学校で研修等を行うことが必要であり、生徒にとって自分ごととして捉えさせるような授業を実施していく必要がある。</p> <p>【第2回】 令和5年11月29日(水)</p> <p>・ICTを活用しながら、生徒の興味関心を引くような工夫がされており、授業に意欲的に取り組んでいる生徒が多く学校の雰囲気は良くなってきている。授業アンケート結果のポイントも上がってきており、全体平均3.3となっている。</p> <p>今以上にポイントを上げることは難しくなるが、上げるためには、授業改善に向けて学校訪問など他校の取り組みを見学する等、校外の研修に参加しながら校内で情報を共有することが、必要になってくるのではと思われる。</p> <p>・50周年式典では生徒会を中心に生徒が主体となる式典となっており、各学年からのプレゼンテーションにおいても堂々とした立ち振る舞いで発表を行っており、好印象だったという声を多く頂いている。式典の様子をホームページに掲載するなど、広報に力を入れて中学生に向けて情報を発信していったらいい。</p> <p>また、中学校との交流の場を今後も設け、特に、中学校の先生方へも貝塚南高校に来てもらい、説明会や情報の共有をしていただければいいのではと思われる。</p> <p>【第3回】 令和6年2月14日(水)</p> <p>・50周年式典への保護者の参加者が少なかったことが気になる。事前に保護者の方のニーズを聞き出す工夫を行いながら、アプローチの仕方を考えていくことが必要ではないか。</p> <p>・学校教育自己診断の評価数値が上昇しているのは良いことであり、今後も今の状態を維持し、学校で先生方が行っている取り組みや修学旅行の様子、卒業生の進学先や就職先での様子などを外に向けてどんどん発信していったらいい。</p> <p>・中学校においても、部活動顧問の確保が大変で、社会体育への移行はあまり進んでいない。</p> <p>・志願者が少ないのが心配、SNSなどをもっと利用するなど広報をもっと工夫してみてもどうか。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R4年度値]	自己評価
<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>(1) 「主体的・対話的・深い学び」を追究した学力向上 ア 「生徒に育成したい資質・能力」を全教職員で共有し、授業力の向上を軸に実現に向かう。 イ 学力向上をめざした取り組み ウ 授業アンケートの効果的活用 エ ICT 機器を効果的に活用した授業の研究・実施 オ 自学自習の推進 カ 図書館の活用と読書活動の推進</p>	<p>(1) ア・「生徒に育成したい資質・能力」、「めざすべき生徒像」を全教職員で共有し、授業力の向上を軸に実現に向かう。 イ・授業力向上の取組み（研修、相互授業観察、研究授業など）を計画的に実施する。 ウ・授業アンケート実施後、「授業アンケート結果」を活用するなど、各教員が結果を分析し、授業改善に努める。 エ・クロームブックを有効に活用するなど ICT 機器を活用した授業改善について研究を深め実践する。 オ・授業を通じて教科・科目の学習への興味、関心を高め、自ら学ぶ姿勢を身に付けさせる。 カ・図書室の積極的な活用と、生徒図書委員活動を活性化させるなど、読書活動を推進する。</p>	<p>(1) ア・授業アンケートの結果平均ポイントを 3.1 以上とする。[3.29] イ・教員相互の授業観察を年間延べ 100 回以上[54 回] ウ・学校教育自己診断(生徒)の「授業が分かりやすい」の肯定率 70% 以上 [82.4%] エ・学校教育自己診断(生徒)の「視聴覚教材や ICT が効果的に活用されている」の肯定率 75% 以上 [87%] オ・自主的に学習する習慣を高める。基礎学力調査(9月実施分)の 1 日あたりの学習時間 1 時間程度以上の割合 1 年、2 年 22% 以上 [1 年 21%、2 年 18%] カ・校内読書感想コンクールの継続実施。図書室の活用の奨励。生徒図書委員会の活動を昨年より増加させる。[3 回]。</p>	<p>(1) ア・職員会議や式典等において、めざす学校像の共通理解を図るとともに、設定面談時や授業観察後の振り返りシート等による授業力の重要性の確認、様々な研修報告会や勉強会を充実させた。 イ・首席、学力向上委員会が軸となり相互授業見学を奨励し、授業力の向上に努めた。生成 AI 等新たな技術やより複雑深刻化する課題への対応等にて年間延べ 55 回と目標に達していないが、昨年並みには達している。特に、授業アンケートや学校教育自己診断での結果、授業力の向上が確認できる。授業力の更なる向上のため効果的な取り組みであり、今後も継続させたい。(○) ウ・授業観察(年間 2 回)後の授業観察シートによる振り返り、目標設定面談での意識づけ、様々な研修報告や勉強会、教員相互の授業見学などにより教員間における授業力への意識の高まりが感じられる。学校教育自己診断(生徒)の「授業が分かりやすい」の肯定的回答が 82.3% と目標達成とともに高い肯定率を維持した。今後も外部への視察を奨励するなど様々な手段を講じて更なる授業力の向上に努めたい。(○) エ・ICT が効果的に活用できるよう cc 委員会 (ICT 活用向上のための委員会) が軸となり短時間ではあるが職員会議などにて効果的な研修会を実施した。学校教育自己診断(生徒)の「視聴覚教材や ICT が効果的に活用されている」の肯定的回答が 84.9% であり、目標を達成した。(○) オ・ICT を効果的に活用するなど家庭学習の機会確保に努めた。基礎学力調査の結果、1 日あたりの学習時間 1 時間程度以上の割合が 1 年生 18%、2 年生 16% であり、目標には達していない。学ぶ意欲を向上させるため更に研究を深めたい。(△) カ・大阪府青少年読書感想コンクールに 1, 2 年生全員と 3 年生有志が参加し 3 年生 1 名が入選した。行事活動部 (図書館部門) が軸となり空想科学図書館通信を年間 30 回配信するなど図書館活用の奨励と読書活動の推進にも努めた生徒図書委員会の活動は 3 回実施した今後も、読解力等の向上をめざし、読書活動の活性化に努めたい。(○)</p>
	<p>キ 特色ある教育課程の充実</p>	<p>キ・スクールミッションに対応した教育課程の充実を図る。</p>	<p>キ・学力向上委員会や教育課程委員会等において教育課程および評価方法の深化を図る。</p>	<p>キ・学力向上委員会や教務部を軸とし、スクールポリシーの策定とともに教育課程について考察を深めている。また、教科会議などにて観点別学習状況の評価の充実に努めた。(○)</p>

## 府立貝塚南高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 夢と希望を持ち、進路実現に積極的に取り組む生徒の育成</p>	<p>(1) 生徒の希望する進路の実現</p> <p>ア 関係機関との連携を深め3年間を通じた進路指導に取り組む</p> <p>イ 生徒情報の共有</p> <p>ウ 計画的な講習の実施</p> <p>(2) コミュニケーション能力の育成</p> <p>ア 協同的な学びや発表機会の充実</p> <p>(3) グローバル人材の育成</p> <p>ア 国際理解教育の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア・3年間を見通した進路指導計画を作成、生徒、保護者とも共有し都度キャリア発達を促す。・進路便りの発行など保護者との情報共有にも努める。</p> <p>イ・定期考査、基礎学力調査などの結果から生徒の学力推移を分析し、学習支援クラウドサービスを活用するなど学年、教科、分掌間で情報共有し進路指導に活かす。</p> <p>ウ・進路目標達成に向け、教科、分掌、学年の連携を深め進学や就職のため多様なニーズに対応できる説明会や講習等を計画、実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・各授業、HR、総合的な探究の時間、学校行事などを通じて、班活動の実施や生徒が発表する機会を増やし論理的思考力、探究力、表現力等を育む。</p> <p>(3)</p> <p>ア・国際交流、SDGsの視点を踏まえた授業や、HR、「総合的な探究の時間」、特別活動等の実施及び関係機関と連携し異文化に触れる機会を確保するなど、国際社会に貢献できる能力を育む。</p> <p>イ・英語運用能力の向上を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・HR等を活用した学年全体での取り組み(外部講師による講演を含む)を昨年並みとする。[1年7回2年8回、3年15回]</p> <p>イ・学校教育自己診断(保護者)の「将来の進路や職業について適切な指導」の肯定率65%以上[70.5%]。・学校教育自己診断(生徒)の「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定率85%以上[92.0%]</p> <p>ウ・進学講習は全体で100回以上[104回]を実施。教育支援クラウドサービスによる学習動画、WEBドリル等の活用を加えて、より個々の状況に合わせた指導を進める。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業がある」の肯定率75%以上[81%]</p> <p>(3)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)の「授業や行事で国際理解について学ぶ機会がある」の肯定率75%以上[82%]</p> <p>イ・検定受講者数など、100名以上を維持させる。[108名]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教育支援クラウドサービスなどを有効に活用し、生徒や保護者との教育情報の共有に努めた。又、大学との連携(近畿大学:特化した説明会やキャンパス見学会の開催、桃山学院大学:連携協定の締結)や近畿財務局との連携による成人教育の実施、教育産業との連携で進路達成プログラムに新たに着手するなど関係機関との連携をより深めた今後も様々な取り組みを深化させすべての生徒の自己実現に繋げたい。</p> <p>・HR等を活用した取り組みは、1年6回、2年11回、3年11回で昨年並みであった。(◎)</p> <p>イ・学校教育自己診断(保護者)の「将来の進路や職業について適切な指導」における肯定的な回答は69.4%であり目標を達成した。(○)</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)の「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定的回答は91.2%となり目標達成と共に高い肯定率を維持した。今後もよりタイムリーに情報の共有、提供に努めすべての生徒の自己実現に繋げたい(○)</p> <p>ウ・進学講習は合計55回の実施であり目標に達しなかった。組織的な体制の構築を研究したい。(△)</p> <p>(2)</p> <p>ア・貝南サミット(校内プレゼン大会)を定着させるなど全教育活動通して学問に対する好奇心のもと探究的に学ぶ機会の充実に努めた。創立50周年記念式典での代表生徒の発表、外部機関が主催するプレゼン大会などにも有志が参加した。今後も論理的思考力、表現力、探究力等を育む機会を積極的に確保したい。学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業がある」の肯定的回答が87.9%であり目標を大きく上回った。(◎)</p> <p>(3)</p> <p>ア・本年度新規に設置した国際理解教育委員会が軸となり大阪観光局との連携にてインド(ストロベリーフィールド・ハイスクール)との学校間交流の実施、大阪国際交流財団との連携で講師を派遣いただき異文化について学ぶ機会を継続実施、大阪府実践的英語体験推進事業や教育委員会高等学校課主催の国際会議への参加の継続など国際理解教育の推進に努めた。特に、インドとの学校間交流の実現は本校における国際理解教育を大きく前進させたと捉えている。学校教育自己診断(生徒)の「授業や行事で国際理解について学ぶ機会がある」の肯定的回答が82.0%となり目標達成とともに高い肯定率を維持した。(◎)</p> <p>イ・英語検定の受験を奨励し年間合計133名の受験者を確保した。目標を大きく上回った。(◎)</p>
---	---	--	--	---

## 府立貝塚南高等学校

<p>3 安全安心で魅力のある学校づくり</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成と支援体制の充実 ア 子ども理解(アセスメント)力を充実させ、生徒の規律性を育む。 イ 教育相談・支援体制の充実 ウ 互いの違いを認め合い、「共に学び、共に育つ」精神を育成する。</p> <p>(2) 特別活動を通じ、豊かな高校生活を実現させる ア 大阪モデルに準じた部活動の活性化 イ 学校行事の活性化</p> <p>(3) 保護者等との連携および環境の整備 ア 保護者との連携 イ 美化活動等の環境整備 ウ 防犯および防災、保健、安全、衛生管理に対する指導の徹底</p>	<p>(1) ア・全教育活動を通して生徒理解に努め、正確な生徒情報の共有を図ると共に、成長や支援ニーズのアセスメントとそれに基づくプランニングを充実させ登校指導や遅刻、服装、頭髪指導などより効果的な規律指導を行う。 イ・SC、SSW、関係機関などとの連携を強め、個に応じた支援の充実を図る。 ウ・自尊感情と多様な個性、ともに生きる社会を理解できる人権教育を推進する。 ・いじめ事象の発生、深刻化を防ぎ、いじめを許さない生徒を育成する。</p> <p>(2) ア・新入生対象の部活動紹介や体験入部を通じ、部活動入部率の向上と部活動の活性化を図る。 イ・校外学習、体育祭、文化祭などの内容について検討し、より充実させる。</p> <p>(3) ア・日常的に家庭との連絡を充実させ、協同にて生徒理解に努め、最適な支援に努める。 イ・環境美化への意識を高め清潔で整備された教育環境を維持する。 ウ・関係機関との連携による防犯及び防災計画の作成、感染症や熱中症、食物アレルギー等に係る対応を充実させる</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(職員)の「教員間での生徒に関する情報共有」の肯定率 90%以上[89%]。 ・生徒指導マニュアルや課題を充実させる。 ・年間述べ遅刻回数 2,000 回以下。[2067 回] イ・学校教育自己診断(生徒)の「悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的率 75%以上[85%]。 ・就学支援会議、ケース会議の開催。 ウ・学校教育自己診断(生徒)の「人権の大切さについて学ぶ機会」の肯定率 85%以上[92%] ・学校教育自己診断(生徒)の「先生ははじめに真剣に対応」の肯定率 80%以上。[87%]</p> <p>(2) ア・1 年生全員の体験入部を継続し部活動加入率 55%以上[65%] イ・学校教育自己診断(生徒)の「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定率 75%以上[84%] ・「体育大会は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定率 75%以上[88%]。 ・学校教育自己診断(生徒)の「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答 80%程度を維持[85%]。</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断(保護者)の「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定率 75%以上[78%] イ・学校教育自己診断(生徒)の「校舎内外の環境整備、美化」の肯定率 55%以上[66%]。 ・保護者との連携による美化活動の継続[1 回] ウ・学校教育自己診断(職員)の「事故事件に迅速、適切に対応」の肯定率 85%程度[78%]。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(職員)の「教員間での生徒に関する情報共有」の肯定的回答が 76.5%であり目標に達していない支援委員会や学年会議、ケース会議などは充実させているが、教職員の情報共有に繋がっていない。今後も教職員間においてコミュニケーションをより深め、同僚性を向上させるとともに生徒理解に努め、より効果的な指導に繋げたい。(△) ・生徒指導提要の改定について全教職員で情報を共有するとともに、危機管理の視点や成長と支援の観点からのアセスメントとプランニングの重要性を訴え、生徒理解と組織力の向上を図った。今後も生徒の最善の利益を欠くことのない体制の構築に努めたい。(○) ・生徒指導提要の改定にともない、謹慎中の対応や旧態な校則を都度刷新した。(○) ・全教職員が一体となり、きめ細かな寄り添いの下、支援に努めた。遅刻回数が 2469 回と若干増加傾向にある。今後もより生徒理解に努め遅刻回数の減少に向かいたい。(△) イ・学校教育自己診断(生徒)の「悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答が 86.4%であり目標達成とともに高い肯定率を維持した。(○) ・SC、SSW、地区の支援教育サポート教員などとの連携で定期的にケース会議を開催し、より専門的な助言をいただき個別支援の充実を努めた。就学支援会議を 5 回、ケース会議を 3 回開催した。(○) ウ・全教育活動を通して人権教育を推進するとともに学年集会にて、LGBTQ 等について当事者よりの講演会の実施、HRにて海外の異文化について学ぶ等共生社会の意識の醸成に努めた。同時に人間関係のトラブル等については、いじめ対策委員会の積極的な開催に努めた。学校教育自己診断(生徒)の「人権の大切さについて学ぶ機会」の肯定的回答が 89.8%であり目標を達成した。(○) ・学校教育自己診断(生徒)の「先生ははじめに真剣に対応してくれる」の肯定的回答が 86.3%であり目標を達成した。(○) 今後も生徒、教職員がより人権感覚を磨きスクールミッションの骨子である「Well-Being な学校づくり」の実現に努めたい。</p> <p>(2) ア・人と人との交流を通じた多様な学びの場として部活動の活性化に努めた。今後も働き方改革の基本方針や部活動大阪モデルに沿いその活性化に努めたい部活動加入率が 64.6%であり目標を達成した。特に、1 年生の加入率が 71.5%であり今後の学校力の向上が期待できる。(○) イ・学校教育自己診断(生徒)の「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答 89.9%であり目標を大きく上回った。(◎) ・学校行事については生徒の主体性の向上を軸に据え、その活性化に努めた。特に体育祭においては応援団組織への参加者数が 221 名であり昨年度 138 名より大きく増加させている。学校教育自己診断(生徒)の「体育大会は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答が 93.0%であり目標を大きく上回った。(◎) ・学校教育自己診断(生徒)の「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答が 83.0%であり目標を達成した。(○) 学校行事が充実し、生徒の修学意欲や主体性が向上しつつある。</p> <p>(3) ア・日常的に教育支援クラウドサービス等を活用し教育情報の提供や緊急時の対応など保護者との連携協力を努めた。今後も連携協力を努めたい。学校教育自己診断(保護者)の「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定的回答が 74.0%であり目標に達しなかった。今後、情報提供の方法や情報発信の時間帯等を勘案し保護者との意思疎通をより深めたい。(△) イ・学校教育自己診断(生徒)の「校舎内外の環境整備、美化」の肯定的回答が 71.1%であり目標を大きく上回った。(◎)</p>
------------------------------	--	---	---	--

## 府立貝塚南高等学校

<p>4 地域・保護者と連携した学校づくり</p>	<p>(1) 広報活動の活性化 ア 学校 Web ページ、ブログによる情報発信 イ 学習支援クラウドサービスによる情報発信</p> <p>(2) 地域との連携 ア ボランティア活動の継続発展 イ 地域の学校等との連携</p> <p>(3) 保護者との連携 ア 保護者向け進路説明会の実施 イ 保護者への進路情報の積極的発信 ウ 検定受験料補助制度の充実</p>	<p>(1) ア・広報委員会が中心となり、オープンスクール等を継続すると共に、学校 Web ページやブログの情報更新を活発に行い開かれた学校づくりをより推進する。 イ・学習支援クラウドサービスを有効に活用し、よりタイムリーに保護者等への情報発信を行う。</p> <p>(2) ア・KEYS (貝塚警察署との連携) 等ボランティアの継続実施および内容の充実 イ・近隣の保育園での保育体験実習や防災避難訓練時の連携の継続及び地域の学校との連携を充実させる。</p> <p>(3) ア・保護者向け進路説明会の内容を充実させ、保護者が参加しやすい説明会を企画する。 イ・進路だよりなどの配布とともに、学習支援クラウドサービスなど、ICT をより有効に活用し保護者などへの情報発信を充実させる。 ウ・資格取得を奨励しチャレンジ精神を育むと共に可能性を最大限に引き出す</p>	<p>(1) ア・様々なブログの更新合計、年間 100 回以上[118 回]。 ・学校説明会の開催を継続させる。 イ・保護者懇談等を通じて、すべての保護者の登録を確認する。</p> <p>(2) ア・KEYS の活動を継続して実施する。[6 回]。その他ボランティア活動を推進する。 イ・保育体験実習を継続する。[6 回] ・防災避難訓練への協力を継続する。 ・中学校や地域との連携活動を維持する。[中学校 71 回 地域 3 回]</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断(保護者)の「学校は将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の肯定率 65%以上[71%] イ・学校教育自己診断(保護者)の「進路に関する情報提供」の肯定率 60%以上[63%] ウ・検定受験者数 200 名以上 [311]</p>	<p>・保護者との連携による校内美化活動を 11/25、校外美化活動を 7/20、12/22 と 3 回実施した。又、保健部による定期的な点検などにより美化意識の醸成に努めた。(◎)</p> <p>ウ・定期的な防災避難訓練の実施とともに近隣保育園の避難訓練に協力するなど地域ぐるみで防犯及び防災意識を向上させた。また、食物アレルギーに対しては地元消防署と連携するなど、安全衛生管理に対する指導を徹底した。更に、大雨による非常変災時には同窓会と連携しバスを配置するなど生徒及び教職員の帰宅を支援した。しかし、学校育自己診断(職員)の「事故・事件に迅速・適切に対応」の肯定的回答が 76.5%であり目標に達していない。機を逸することなく対応している現状において、教職員間における危機管理意識と現状理解が課題である。研究を深め改善に努めたい。(△)</p> <p>(1) ア・広報ポスターを新規に作成すると共に学校案内に進路実績を差し込み、刷新した。又、様々なブログの積極的な更新、教員による中学校訪問に加え、校長による地元中学校への訪問を実施し開かれた学校づくりを推進した。ブログについては、校長ブログ 59 回、スクールライフ貝南ブログ 234 回、合計 293 回の更新であり昨年度より大きく上回った。(◎) ・学校説明会は昨年度 3 回であったが本年度は 4 回開催した。(◎) イ・教育支援クラウドサービスへの登録は 100%を維持している。(○)</p> <p>(2) ア・貝塚警察と連携した大阪府内唯一のボランティアチーム「KEYS」の活動を活性化させ、ボランティア意識の向上と地域連携の充実を努めた。今後も更に発展させ地域に根ざした学校をめざしたい。25 名の有志生徒が貝塚警察より委嘱を受け、KEYS の活動を 9 回実施した。有志生徒数が昨年度 10 名より大きく増加した。学校全体にボランティア精神が育まれつつある。(◎) イ・近隣保育園での保育体験実習を 6 回実施し継続させた。(○) ・11/30 には保育園の避難訓練に協力し地域ぐるみで防災意識を醸成させた。(○) ・生徒会が中心となり 8/10 に貝塚第 2 中学校との交流会を本校にて新規に実施した。 ・吹奏楽部が様々な演奏会への参加とともに、6/4:【カンカン吹奏楽フェスタ】10/28:【リレーフォーライフジャパン 2023 泉州かいずか】11/3:【カンカン吹奏楽祭】2/4:【貝塚ロータリークラブ 60 周年記念式典】に参加するなど地域連携を深めている。また、様々な部活動において中学校との合同練習会を 39 回実施し、連携を深めた。(◎)</p> <p>(3) ア・懇談期間を活用しての様々な説明会の開催、学習支援クラウドサービスなどを活用しての日常的な教育情報の提供など、保護者と連携しすべての生徒の自己実現に努めた。学校教育自己診断(保護者)の「学校は将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の肯定率は 69.4%であり目標を達成した。(○) イ・学校教育自己診断(保護者)の「進路に関する情報提供」の肯定率は 62.0%であり目標を達成した。今後も ICT の効果的な活用等、情報提供方法の研究を深め、保護者との信頼関係を深めたい。(○) ウ・進路実現の一助とチャレンジ精神を向上させるため、資格取得の奨励に努めた。受験者数は 358 名であり目標を大きく上回った。(◎)</p>
-------------------------------	--	--	--	---

## 府立貝塚南高等学校

<p style="text-align: center;">5 教職員の 資質向上と 意識改革</p>	<p>(1) 個々の教員がスクールミッションを理解し、学校運営に参加する意識をもって業務に当たる。 ア 教員間での情報共有を充実させるなど、チームで働く力を育み組織目標の達成に向かう。</p> <p>イ ICT 機器を活用し校務の効率化を図る</p> <p>ウ 危機管理体制の充実</p> <p>(2) 実効ある教職員研修の実施と相互授業見学や勉強会の充実、及び外部の研修への積極的な参加を奨励し学び続ける教職員を育成する。</p> <p>ア 教育改革やニーズに対応した教職員研修の実施</p> <p>イ 他校への授業見学等や研修会への参加</p> <p>(3) 働き方改革の取り組み</p> <p>ア 校務運営の効率化</p> <p>イ 働きやすい職場環境整備</p> <p>ウ 安全衛生委員会の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア・口頭や ICT を併存的に活用し、よりタイムリーに教育情報の共有を図り同僚性を高めながら、学校力の向上に努める。</p> <p>イ・GIGA スクールサポーターや外部人材、教員相互の支援体制を充実させ教職員の ICT 活用能力の向上に努め、校務の効率化に繋げる。</p> <p>ウ・危機管理に対する様々なガイドラインの精読を日々喚起するなどし教職員間における危機管理意識の醸成を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア・教職員の資質向上をめざした教職員研修の実施と、教員相互における勉強会の実施</p> <p>イ・他校への授業見学や研修会等への積極的な参加を奨励する。</p> <p>(3)</p> <p>ア・ICT の有効活用、校務分掌や委員会組織のスクラップ&amp;ビルドなど校務運営の効率化に着手する。</p> <p>イ・職場環境を整備すると共に、支え合う意識を醸成し、心身共に健康な状態が持続できる温かい職場環境の構築をめざす。</p> <p>ウ・全校一斉定時退庁日の徹底を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(職員)の「校務に関する情報共有ができている」の肯定率 70%以上[75%]</p> <p>イ・学校教育自己診断(職員)の「ICT 機器や校務処理システムの活用により校務の効率化を図ることができた」の肯定率 80%以上を維持[83%]</p> <p>ウ・学校教育自己診断(職員)の「個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立している」の肯定率 80%以上[78%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・教職員研修 10 回程度[11 回] ・勉強会 10 回程度[13 回]</p> <p>イ・他校への視察を 2 回以上行い、可能な限り校内で研修報告会を実施する。[1 回 2 名]</p> <p>(3)</p> <p>ア・分掌の統合など、校務の効率化のため検討をすすめる。時間外の外線電話の受付中止等に取り組む</p> <p>イ・ストレスチェック結果における職場のサポートを前年度より改善させる。[111]</p> <p>ウ・時間外超勤務者の年間累計数を減少させる。[46 名]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・中央教育審議会答申に関する資料の一部や校長研修後の報告、生徒指導提要の骨子、第 2 次大阪府教育振興基本計画など、教育情報の共有を図ると共に、式典などにてスクールミッションの骨子を発信するなど存在意義の共通理解に努めた。学校教育自己診断(職員)の「校務に関する情報共有ができている」の肯定率が 73.5%であり目標を達成した。(○)</p> <p>イ・タブレットやデジタル採点に関する勉強会の開催や職員会議などにおいて短時間で研修会を開催するなど ICT のより効率的な活用に努めた。学校教育自己診断(職員)の「ICT 機器や校務処理システムの活用により校務の効率を図ることができた」の肯定率が 82.4%であり目標を達成した。(○)</p> <p>ウ・学校教育自己診断(職員)の「個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立している」の肯定率が 76.5%であり目標に達していない。(△) コンプライアンスやハラスメントに関する教員研修の開催、職員朝礼や職員会議での報道提供資料や校長研修後の報告、共有ホルダーにあるガイドライン精読の指示などにより日常的に危機管理意識の醸成に努めた。今後も適時、法的対応の理解を含めた注意喚起を継続させ危機管理意識の醸成に努めたい</p> <p>(2)</p> <p>ア・教職員研修等を充実させ社会の変化やニーズに対応した資質、能力の向上に努めた。職員研修 6 回、学年集会型 2 回、HR 型 1 回の合計 9 回の実施であった。大学教授をお招きした 4 回の教職員研修の振り返りでは(86.7、88.2、89.5、71.4)と概ね高い満足度が確認できた。(○)</p> <p>・勉強会はデジタル採点に関して 3 回、教育産業によるもの 2 回、cc 委員会で 3 回、学力向上委員会 2 回、職員会議にて教務部長より観点別評価やデジタル端末の活用、授業改善について 1 回、教育相談担当より 1 回、アドバンス研修等、研修参加者による報告を 6 回開催した。今後も勉強会や研修報告を充実させ教師力の向上に努めたい。(○)</p> <p>イ・他校への視察は 2 回 4 名の実績であり目標を達成した。(○)</p> <p>(3)</p> <p>ア・分掌の統合合については現在検証中である。委員会については国際理解教育委員会の設置や CC 委員会と学力向上委員会の統合など適時スクラップ&amp;ビルドは進行させている。校務の効率化のための時間外の外線電話の受付中止等、10 項目は概ね実践できた。(○)</p> <p>イ・「仕事の負担」「仕事のコントロール」という 2 つのストレス要因の状況が比較的良好な職場環境が健康的な状況であるとの結果である。しかし、職場の支援については 112 となり昨年度 111 よりやや上昇傾向にある。それに伴い総合健康リスクが 110 となり昨年度 109 よりやや上昇している。同僚性の課題が明確である。今後、チームで働く力の向上に重点を置き、更なる職場環境の改善に努めたい。(△)</p> <p>ウ・全校一斉定時退庁日は木曜日に設定しており、校内放送にてアナウンスする等、定着しつつある。又、時間外在校等時間 80 h 越えの年間累計合計対象者数は 32 名となり、昨年 44 名より減少している。月ごとの時間外在校等時間平均においても減少傾向にある。今後もヒアリングを充実させなど様々な手段を講じて働き方に対する教職員の意識を改革しその縮減に努めたい。(○)</p>
--	---	--	---	--